

長屋王家木簡の概要とその意義

はじめに

I なぜ重要な発見だったか？

- 1 質・量ともに木簡発掘史上最大
- 点数 三万点？
- 一括資料

2 家政機関の木簡ということ

- 家政機関の二面性

3 「長屋親王」木簡の出土

- 長屋王家の確定
- 王と親王
- 長屋王の略歴

・長屋皇宮儀一石春人夫
・羽咋直嶋

II 木簡から何がわかるか？

1 邸宅内の人々

- 組織
- 技能者の存在
- 役人の勤務評定
- 「北宮」について

2 長屋王の経済基盤

- 物資の入るルート
 - ①宮から
 - ②封戸から
 - ③田地から
 - ④園地から
- 都祁氷室

3 暮らし

- 食べ物
- 動物など

おわりに

(参考資料)

イ 長屋王願経

大般若経卷第二四 奥書
 藤原宮御寓 天皇以慶雲四年六月十五日登遐三光惨然四海遐密
 長屋殿下地極天倫情深福報及為
 天皇敬写大般若経六百卷用尽酸割之誠焉
 和銅五年歲次壬子十一月十五日庚辰竟
 用紙一十九張 北宮

ロ 神龜三年(七二六) 山背国愛宕郡出雲郷計帳

大初位下出雲臣安麻呂 年四十二歳 正丁 眉黒子 北宮帳内
 大初位下出雲臣忍人 年三十六歳 正丁 左臂黒子 左大臣資人

